

令和5年7月12日(水)

「ChatGPT」などの対話型 AI について

昨年11月対話式 AI である「ChatGPT」が登場しました。まるで人と話しているかのように自然な対話ができますし、「小説を書いて」と入力すると物語を、「プログラムを教えて」と入力すると参考となるコードを出力してくれます。命令に対して即座に回答してくれる手軽さもあり、対話式 AI は世界中で注目されています。

このように命令に対してコンテンツを出力してくれる AI は「生成系 AI」と呼ばれ、ChatGPT のような文字や対話だけでなく、画像や音楽を生成する AI など、さまざまな種類が登場しています。

一方生成系 AI は、そのリスクについていろいろな方面から指摘されています。アメリカの調査会社が2022年末に公表した、2023年の世界10大リスクではロシア、中国に次いで3位に「生成系 AI の進歩や普及が、政治・経済的な混乱に広く影響する恐れがある」などとしてランクインしています。

また、教育の面ではレポートや論文への不正や盗作などが懸念されています。ですから、海外では、悪用を防ぐために、生成系 AI を使用した場合、使用したことを明らかにしないで論文やプレゼンテーションに使うことを禁止している大学もあります。

日本では、現段階で一概に使用を禁じてはいませんが、不適切な使用が行われることが絶対にないように、今年4日に文部科学省から「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」が示されました。このガイドラインでは、各種コンクールの作品やレポートなどに、生成系 AI による生成物をそのまま自分の成果物として応募することなどを禁じています。

また、生成系 AI が作成した生成物の精度は今後改善されていくと見込まれてはいますが、現状では質問に対して明らかに間違った回答を返すことも多いです。また、差別や偏見、フェイクニュースのような偽の情報や誤った情報などが生成される恐れも指摘されていますので注意が必要です。そもそも、中学生の皆さんが使用する際は、保護者の許可が必要です。

自分自身の考える力が伸びなかつたり、衰えたりすることも危惧されますので、中学生の皆さんは「ChatGPT」などの生成系 AI の使用はちょっとだけにし、使ったことを明確にしましょう。